

K040

- T: えっと、これでうまくいくはずです。
えー、んーと、こうかな、はい。
じゃ、そしたら、あの、OPIと言いますけど、始めます。
あの一、よろしくお願ひします。
- I: ***。
- T: ま、いちおう、インタビューだから、名前を言っときますけど、【T (姓)】です。
- I: えー、【I (姓・名)】です。
- T: じゃー、【I (名)】さんでいいですね。
- I: はい。
- T: はい。
えーっと、ま、あの、【I (名)】さんはオーストラリア人ということで〈はい〉、ね。
オーストラリアはどちらですか？
- I: えー、生まれはパプアニューギニアでした〈おー〉。
パプアニューギニア〈ええ、ええ〉、【地名1】ですね〈はー〉。
それで両親は、えー、南オーストラリアですね〈あー〉。
【地名2】のほう。
- T: なるほどね、ええ。
- I: わたしが、あの、オーストラリアに住み始めたのは、んーと、8歳で〈ええ、ええ〉、【地名3】〈ええ〉ですね。
あの、9年間。
- T: 生まれたのがパプアニューギニアで、それから、すぐ、もう、南オーストラリアですか？
- I: パプアニューギニアを出て〈ええ〉、えーと、家族と一緒に〈ええ、ええ〉、あの一、東南アジア〈ええ〉とヨーロッパのほうに1年間〈ふーん〉、家族で〈ふんふんふんふん〉旅行で回りましたんですね〈ええ〉。
その年、あの一、まー、学校はなかったんですね〈はーはーはー〉。
学校は行かなかったんですね〈ええ、ええ、ええ〉。
で、オーストラリアに〈ええ〉帰って〈ええ〉、8歳のときに。
- T: ふんふんふん〈はい〉。
ふーん。
で、それが【地名3】。
- I: えー、最初は、えー、【地名4】という〈はー〉、あの一、田舎のほうの町ですけれども〈ええ〉、あの一、えっと、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に〈ほーほー〉住んでて〈ええ〉、そして、ま、3ヶ月間、そこに住んでて、あ、ごめんなさい、あ、最初は〈ええ〉、あの一、【地名4】は〈ええ〉6ヶ月間かな〈ほーほーはー〉。
そして、その6ヶ月、6ヶ月間〈ええ〉、6ヶ月の間に、あの一、両親は〈ええ〉、まだ、あの、【地名5】のほうにいたんですね〈はーはーはー〉。
そして彼らが、えーと、【地名5】からインドまでバスで〈はー〉旅してたんですよ〈はーはーはーはー〉。
で、それが終わったら〈ええ〉、また、あの、あの、【地名3】で〈ええ〉、あの、全員で家族が〈はーはーはー〉、あの、なんか、集合して〈ええ〉、そして、あの、みんなが【地名2】に…
- T: あー、なるほどね。
- I: 移動しました。
- T: あー、はー。
でも、ま、パプアニューギニアは生まれただけで、あんまり覚えてない。
- I: おー、よく覚えてます。
- T: え、もう覚えてる。
- I: はい、はい、あ、ま、やっぱり、あの、すごく印象的な〈ええ〉、あの一、なんていうんですか〈ええ〉、あの一、例えば、においがまだ覚えてます。
- T: あ、そう。
パプアニューギニアとは、わたしは、ま、ぜんぜん、その〈あー〉、あの、し、ま、なん、えー、熱帯ですね。
- I: うん、そうですね。

K040

あの一、やっぱり、…

T: あ、そう。

I: 森のにおいもよく〈あ一〉、なんか、わたしは、ある〈ええ〉、あるとき〈ええ〉、あの、京都県の【地名5】
…

T: ええ、ええ、よく知ってる。

I: に行きました〈はいはいはい〉。

そのときに〈ええ〉、それで、ま、わたしは、25歳でしたかなー〈はーはーはー〉、26歳かな〈ええ〉、あの一、そのときに、えーっと、空気〈ええ〉吸ったら〈ええ〉、あ、これはパプアニューギニアと同じようなものだ {笑} 〈あ一〉 思って、だから、もしかしたら、けっこう、なんか、いろんな、あの一、なんていうんですか、あの一、ま、記憶があるんですね、たぶん。

T: なるほどね〈はい〉。

あの一、それは、森の、どういう、におい〈うん〉、どういうふうにかえたら、森のにおいってどうか。

I: うんうん、うーん、森のにおいです、そうですねー、やっぱり、なんか、ちょっと、あの一、湿った、なんていうんですかね {笑} 〈あ一〉、独特な空気という〈ええ〉、わたしが、あの一、ふく、【地名5】に行ったのは〈ええ、ええ、ええ〉、ま、ちょうど、あの一、夏の間ですね〈ええ、ええ、ええ〉。

非常に、なんか、ちょっと、蒸し暑くて。

T: なるほどね。

I: で、もしかしたら、あの一〈ええ〉、そうだったかもしれないですけど〈うん〉、その、あの一、その、においだけ、においだけではなく〈はい〉、やっぱり、その、緑も〈うん〉すごい印象的です〈うんうん、ほ一〉、でしたね。

あの一、【地名5】は〈ええ〉、あ一、ほんとにパプアニューギニアに似てるんだ。

T: ほんとに {笑}。

I: そうそう {笑}。

T: でも、だいぶ違う…

I: だいぶ違うと〈ええ〉、わたしも、なんか、あの一〈うーん〉、それはそうですねでも〈あ一〉、やっぱり、分からないですね。

T: そういう印象があるんですね。

I: はい。

印象が、もう、そのときに、もう、パプアニューギニアに戻りましたという感じがします。

T: あ、そう。

というのは、ま、夏は暑いよね、その、日本の夏〈ん一〉。

それから【地名5】も、けっこう、盆地で、…

I: あ一〈ええ〉、そうですね。

その、その、天気〈ええ〉、そういう、あの一、その、気候の〈ええ〉意味では、だけではなく〈ええ、ええ〉、ただ、なん、なん、なんですか、なんか、なんか、本能的に、なんか、パプアニューギニアに〈あ一〉、あの一、戻ったというか、…

T: あ一、それから、また、戻られたことあるんですか？。

I: ないです、ないです、ないです、ないです〈へ一〉。

あの一、それは一、えーっと、パプアニューギニアは〈ええ〉、どくりつ一 [独立] されてから〈ええ、ええ、ええ〉、もう、戻ったことないですね。

T: あ、そうですか。

あとは、ま、旅行して、それで、オーストラリアで〈はい〉、ずっとね。

I: はい。

T: ふーん。

で、今、確か専門が宗教〈ええ、ええ〉、宗教研究ですね？。

I: ま一、あの一、今、やってるのは〈はい〉宗教研究ですけども。

T: ええ、ええ。

I: はい。

もともと、あの一、アジア学科〈はーはーはー〉、卒業したんですね〈ええ、ええ、ええ〉。

だから、あの一、けっこう、ま一、いろんな {笑}、ほんとに、もう、やりながら〈ほ一ほ一ほ一ほ一〉、

K040

***ですね (ふん)。

宗教 (ええ), いま, わたしは宗教と (ええ) メディアについてやってるんですね。

T: 宗教とメディア, なんか面白そうですね。

メディアっていうと, その, あれですか, 例えば新聞とか (ええ), あるいはテレビ, ラジオ, えー, …

I: ええ, そうです, はい, はい。

T: そういうものなんですね。

I: はい, そうです。

T: あの一, もうちょっと詳しく, 教えてもらえませんか。

I: ま, あの一, その, メディアの (ええ), ま, 表象ですね (ええ), メディアが, どういうふうに関係を (うん), ほうろー [報道] (ええ, ええ) してるかとか (ええ, ええ), その, 宗教ということばを (ええ), あの一, とくに日本は (ええ), あの一, わたしの研究は (ええ), ま, 日本***ですけども (ええ, ええ), あの一, 日本のメディアは (ええ, ええ), その, 宗教に対して (はい), ま, まず, その, 宗教というものを, どう, どう扱っているか (ええ) ということですね (あー, あー)。

で, 博士論文は (ええ, ええ), えっと, その, 占領期 (うん), 時期は占領期ですけども, …

T: えー, 占領期って, その, えー, …

I: 日本の。

T: 日本のね。

I: そうですね, そうです。

で, あの一, そのときにいろんな, あの一, ま, あの一, 信教の (ええ) 自由が (ええ), あの一, 定まって, 一, あの一, で, いろんな, あの一, 新宗教が (はいはい) 出てきたんですね (はい)。

そして, わたしが, あの一, 今, あの一, やってるのは (ええ), えーと, 二つの, あの一, 新宗教 (ええ), その, あ, それ, もともと, 早く (ええ), あの一, め, マスコミに (ええ), あの一, 報道された (えー) 宗教団体だったんですね (はいはい, はい)。

で, その, しゅうきょうだんたい [宗教団体] は, どう報道され, されるかどうかを…

T: なるほどね。

I: チェックするし (ええ, ええ, ええ), で, その, あの一, あの一, 戦前の (ええ), あの一, 報道の仕方も (ええ) 戦後の報道の仕方も (ええ), ちょっと, あの一, 比較して (はーはーはー)。

そして, 今 (ええ), あの一, 宗教 (ええ) とメディア (ええ) はどうなってるかとか (はーはーはーはー), それも少しやってますけども (おー), 例えば, あの一, 細木数子とか (ええ, ええ), 江原, あ, 啓之の (ええ), あの一, ま, 番組とかの (ええ, ええ, ええ, ええ), それを見て (ええ), で, その宗教のテーマ, あ, あまり宗教ということばが出ないんですね (ええ, ええ, ええ)。

でも, 非常に, なんか, 宗教学者として, 非常に宗教的な (うん) 面があるんですから (ええ, ええ, ええ), そして, とくに細木数子の場合は (うん), ま, 彼女, 彼女の (ええ), あの一, テレビ番組とか (ええ, ええ), 本とかは, けっこう (ええ), 昔は, いっぱい, あの一, 先祖供養について (はいはい, ええ) 本 (ええ), 書いてたんですね (はーはーはー), 出してたんですね (ええ), あの一, 人が。

T: せん, …

I: 先祖供養。

T: 先祖供養ね, はいはい。

I: で, ま, あの一, 彼女が言うには, もう, これは, この先祖供養というのは (ええ, ええ, ええ), 宗教, 宗教ではない (ええ, ええ, ええ)。

この, あの一, 儀式は宗教ではない (うん)。

もう, 日本の文化 (うんうん) なんですよ (あー, はい), と何回も (ええ), あの一, 本, 本 (ええ, ええ, ええ) 書いてある, 書いてあるし, あの一, 彼女の番組 (ええ), テレビ番組も (ええ) 何回も発言したんですね。

ですから, そのような人が, なんで, そういう, あの一, えーと, 発言 (えー), あー, 権限 (ええ, ええ) があるかどうか (うーん), どう, なぜ, その (うん), そのような人が (うん), あの一, そういう (うん), あの一, ま, てーげー, あ, て, あの一, ごめんなさい, あの一, 提言 (うん) 力というか {笑}, そういう (うん), あの一 (うん), そういう機能 (うんうん), なんで (うん) そういう人があるかと (うんうん)。

そういう研究もやっています。

T: メディアってすごく強いですよ。

K040

その一、ひ、一つの、なんて言うのかな、ま一、その時代時代の、その一、なんて言うかな一、え一、で、いちばん、その、受け入れられそうな、あの一、枠があるんじゃないかなと思うんですね。

え一っと、新聞で、どこまでほんとか嘘かって、これ、難しいですよ（はい）。

警察が言うことがほんとかって（ええ）、あ、危ないですね（ええ）。

警察は警察で（ええ）、み、そ、その立場上言ってるし（ええ）、え一、いろんな、殺人事件とか、いろんなものがある（ええ、ええ）、え一、あの、ま、例えば、セクハラとか、いろんなにしても（うん）、ほんとにセクハラかどうかは（ええ）よく分からない。

I : そうです。

T : ですから、まさしく宗教も（ええ）、あの一、宗教ってなんだ、日本、よく日本教って言いますよね（うーん）、いまの一、なんかね（うん）。

だから、いったい誰が日本教って言ったんだろうか（うーん）、そういう問題かな。

I : そうですね。

その、その、あの一、え一っと（うん）、うーん、ま、さっき先生が（うんうん）おっしゃったように（うん）、あの、メディアは強いっていうの、その、あの、メディアの影響が強い（うんうん）ではないか（うん）と思うんですね（うんうん、うん）。

むか、あの、そういう、あの、もしかしたら（うん）、あの、そうですね、影響が、あの、強いと思うんですね（うーん）。

で、あの一、いちばん（ええ）、あ一、わたしから見ると（うん、ええ）、大事なものは（ええ）、誰が、その、あの、問題、その、ま、例えばセクハラとか（ええ）、あの、宗教とか（ええ、ええ）、犯罪とか（ええ、ええ）、え一と、そういう、あの一、権限（うんうん）、あの、その、その（そう、はい）、発言の権限が持つてるかどう（ええ、ええ）、それがいちばん（ええ）、あの一、ま一、ポイントですね（ほ一ほ一）。

ですから、ま、警察は（ええ）、もう、すでに国の（ええ）、あの一、国の（ええ）機関ですか（ええ、ええ）、国の一つの…

T : そうですね、はい。

I : あの、機関だから（はい）、だから、あの一、ま一、国で、あの、なんか、それで、あの、公式で、あの、そういう、警察の、あの一、ま、提言力というか（ええ、ええ）、あの、権力が（ええ、ええ）みとめら、認められたんですけども（ええ）、その、メディアに出る人（ええ、ええ）が（ええ）、どうやって（ええ）、あの、その、力を（ええ、ええ）つけるかどうか（ええ、ええ）というところが、非常に、わたしにとって非常におもしろいんですね。

T : なるほどね。

特に、ま、新興宗教、ま、日本にたくさんあって（うん）、ま、いわゆる、その、…

I : あ、し…

T : 新興宗教。

I : あ、それはおもしろいんですね（{笑}）。

その新、新宗教、わたしが（うんうん）さっき、あの、ゆったよう（うん）、あ、ゆ、ゆったんですけども（ええ）、新宗教があるんですね（ええ）。

新興宗教もあるんですね（うんうんうんうんうん）。

それで昔は、え一、そういう、あの、りゅーじ [類似] 宗教とか（ええ、ええ）、邪教も、そういうことばも使ったし（うんうん）、だから、その、しんし、あの、その、宗教の分野の中では、新宗教（ええ、ええ）、新興宗教（ええ）、新興宗教は、あの、ちょっと、そのイメージが、もう少し、なんか、少し、なんか、…

T : 違いますね。

I : あ一、ちょっと違います。

T : 違いますね。

I : ちょっとニュアンスが違うんですね。

T : だいぶ違いますね。

I : もちろん、その、その、あの一（うん）、その、教団（ええ、ええ）、あの、わたしが、その、あの、なんか、あの（ええ）、いろんな信者（ええ、ええ）、インタビューしたんですけども、やっぱり、みんなが、ま一、新宗教、そういうことば嫌いだから（あ一）、わたしたちは新しいじゃない（うん、あ一、うん）んだから（うん）、この、この教えは昔から（あ一）とか、そういう…

T : なるほどね。

K040

- I : そういう説明で〈あー〉。
でも、新興宗教と言ってしまうと〈あー {笑}〉, もう、逆に怒るです {笑}。
- T : お、もう、お、お、怒るでしょう。
- I : そうです。
だから、…
- T : だから、もう、これね、400年、500年前、キリスト教がね、あの、フランシスコ・ザビエルが日本に来たときなんか大変だったんじゃないかなと〈うーん〉思うんですけど、ま、ちょっと、宗教のこんなむつかしい話はこれぐらい〈はい〉。
あ、確か、ロックがお好きだと、あの一 {笑}, ギターを…
- I : はい、そうです、そうです。
- T : ずいぶん、ま、宗教とロックって言うと〈はい〉, 差があるけど〈はい〉, えーっと、どういうロックを、が好きなんですか？
- I : あの一、どういうロックと、ま一〈ええ〉, そうですね、ま一、けっこう、わたしが、あの、50年代〈ええ〉60年代〈ええ、ええ〉の、ま、70年代も〈ええ〉好きですけど {笑} 〈ええ、ええ〉, そういうロックが好きですね。
- T : 50年代60年代〈はい、ええ〉。
クラシック・ロック。
- I : クラシック・ロックですねー〈{笑}〉。
で、わたしは、その、あの、【歌手名1】、【歌手名2】という、あの、【歌手名3】が、あの、…
- T : 【歌手名3】。
- I : あの〈あー〉, その、赤い、あの、ギターの〈あ、はー〉同じようなもの、持ってるんですね。
で、あの、そうですね、もう、じゅー、な、16歳から〈ええ〉, あの、最初、ギターを始めましたけど…
- T : あ、そうですか。
- I : その前は、ちょっと、ピアノとか〈ええ〉, あの、チューバも…
- T : あ、ほんとに。
- I : やってたんですね、学校で。
- T : じゃ、音楽、お好きなんですね。
- I : うーん、好きですね。
- T : ふんふんふんふん。
- I : はい。
- T : ふうん〈うん〉。
いや、ぼくも音楽は好きです〈あ〉。
ぼくは、ま一、やっぱ、クラシックが好きだから〈ふうん〉, クラシックは、割合、まあまあ知ってる〈うーん〉, いろいろと。
で〈うん〉, えー、ま、ロックはどうかなと思うけど〈あー〉, ロックの魅力ってなんですか？
- I : ろ、ロックの魅力で〈うん〉, うーん、わたしにとって、いろんな、あの一、ま〈うん〉, そうですねー、ま、宗教と同じように〈ええ、ええ〉, ロックのなかで、いろんなロックがあるんですね〈はーはーはー〉。
その、いろんな、なんか、表現、あるんですね〈はーはーはー〉。
その、非常に、なんか、あの一、なんか、寂しい気持ちとか〈ええ、ええ、ええ〉, あの一、例えば、あの、ま、げ、元気いっぱい〈ええ、ええ、ええ〉, そういう、あの〈ええ〉, えーと、そういう、なんですか、んーと、なんと、なんと言ったらいいでしょう、あの一、ま一、リズムは〈ええ〉いいんですけど〈ええ〉, やっぱり、そのリズムと声が〈ええ〉, あの一、合わせるのが、すごく大切に〈はーはーはーはーはーはー〉, それで、そのロックのなかで〈ええ〉, なんか、そういう、うまくリズムと〈ええ〉, あの一、あ一、リズムと〈ええ〉, あの一、声と〈ええ〉, その音楽合わせるのが〈ええ、ええ〉, すごく、なんと、なんと言いますか、うまく合わせると、なん、うん、うーん、そうですね、あの一、なんか、あの、一体感。
それっていうか、…
- T : 一体感。
- I : なんと、なんと言いますかねー〈うん〉。
あの一〈うん〉, 確か、例えば、あの、ライブで〈ええ、ええ〉やると〈ええ〉, あの一、バンドと一緒に

〈ええ、ええ〉、あの、ま、一緒になって〈ええ、ええ〉、ま、目的は〈ええ〉、一緒、同じ〈ええ〉、あの、いいものを〈ええ、ええ〉、あの、全員で作って〈ええ〉、そして、その〈ええ〉、お客さまに〈ええ〉その気持ち伝える〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、そして、お客さんの、あの、反応によって〈ええ、ええ〉、われわれも〈うん〉、なんか〈うん〉、力を得るといふ、それが好きです。

T: なるほどね。

I: {笑} ま、でも、そ、それはロック…

T: ま、ちや、【歌手名3】なんかふるいー〔古い〕ほうだから〈ええ、ええ〉。

でも、その頃、昔のロックとか、今のプログレッシブ・ロックとかね〈うーん〉、言う、どうだろな、割合、昔のイメージからいくと、例えばロックをやっている人は〈うん〉、ま、たぶん我々やってるだろうけど〈あー〉、えー〈あー〉、そういうイメージが〈あー〉あるし、そう、…

I: あの、…

T: 実際、そうじゃないからと思うんだけど、…

I: そう、そうじゃないですね。

T: それについて、どう思われますか？

I: そうじゃないですね〈うん〉。

やっぱり、あのー、いろんな、あの、いろんな〈ええ〉人もやってるし、いろんな〈ええ〉形、あの、例えば、【歌手名4】〈ええ、ええ、ええ、ええ、ええ〉という方、いらっしやったんですね〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、アメリカのミュージックジャンで〈ええ、ええ〉。

わたしは、彼の、ま、彼もコンポーズでしたし〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、クラシックミュージック〈ええ〉もけっこう〈ええ〉、あのー、詳しいですよ〈ええ、ええ、ええ〉。

でー、でも、彼が、非常に、なんか、ロックの中でも〈ええ、ええ〉優れて、あの、ギターの〈ええ、ええ〉あの、技術が優れてるし〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、あのー、あの〈うん〉、アルバム〈うん〉何台も出したんですけれども〈うん〉。

彼は〈うん〉非常に、あの、まず、ドラッグも反対〈あー〉なんですね〈ええ、ええ、ええ〉。

もう、あの、60年代の、そろ、その〈ええ〉、アメリカのアシッド・ロックの〈ええ〉時代〈ええ、ええ、ええ〉ですね、あのー、彼のバンドが、そういうヒッピーの〈うん〉、あのー、ところから〈うん〉、あのー、出てきたんですね〈うんうん〉。

で、彼は、すごく、その、それに反対して、…

T: あ、そう。

I: 音楽だけは〈はい〉、もう、あの、彼のバンドは〈うん〉、もう、もう〈うん〉、全員、もう〈うん〉、もし誰かが〈ええ〉、あの、ドラッグやったら〈ええ〉、もう、もう、かいじょうという、あの、…

T: あ、そう。

I: はい。

そういう〈ふーん〉厳しい、あの、ルールがあつたんですね〈ふんふんふん〉。

だから、彼は、その、あの、優れてるミュージシャン〈うん〉だけ〈うん〉、あの、が、あの、使ってた、使ってたんですね。

T: でも、【歌手名5】〈うーん〉なんか、たぶんドラッグで。

I: そうですね。

T: そういうことについて、…

I: 【歌手名5】、じ…

T: どう思われます？

つまり〈あ〉、芸術家がね〈あー〉、すごくレベルが高くなると〈ええ、ええ〉、ま、そういうふうなことをやってしまうっていう。

I: あのー、うーん、もしかしたら、そうですね、うーん、どうですか、あの、やっぱり、舞台とかなんか〈ええ〉、ライブでやると〈ええ〉、ある意味で〈ええ〉、あのー、自分を、自分のことを、なんか、見せるですよね〈ええ〉。

あの、自分の、あの、スキルとか〈ええ〉、自分の、うーん、まー、タレント〈ええ〉っていうか{笑}、自分の才能とか見せるということ。

だから、ある、ある意味で、なんか、エゴの〈はーはーはー〉、あのー、エゴの、なんていう、エゴを見せるっていうか、…

K040

T: なるほどね。

I: あの、ですから、たまに、わたしも、なんか、あの、わたしのロックの仲間で〈ええ、ええ〉、あの一、何人かの〈ええ〉、あの、人〈ええ〉が、あの、ま、昔、昔の話なんですけれども〈ええ、ええ〉、何人の人がドラッグやってたんですね〈はーはーはー〉。

そして、な、その中で何人の〈ええ〉、あの〈ええ〉、なんか、自殺してしまいました。

T: あー。

I: うーん。

もしかしたら〈うん〉、その、エゴの〈うん〉世界〈うん〉、エゴ、エゴで〈うん〉、エゴと〈うん〉、あの、ま、現実に戻るんですね〈うん〉、その、ライブが終わって〈うん〉、現実に戻って〈ええ〉、ま、すべてが〈うん〉、あの、わいわいという{笑}〈{笑}〉、あー〈うん〉、まー、うまく表現できないんですけれども、まー、なんと言うんですか〈うーん〉、あの一、ドラッグとロックの関係、でも、あー、でも、それでも、なんか、クーリッシュとか〈うん〉、あー、クーリッシュてのは、なんか、なんか、***とか〈ええ〉、なんか、***とか、もう、いろいろ、飲みましたじゃないですか。

T: あー。

いや、ぼくはぜんぜん知らない。

ぜんぜん。

I: あー、なんか、もしかしたら、…

T: ぼくは…

I: 芸術〈うん〉、芸術家が〈ええ、そう〉、あの一、そういう、なんか、ドラッグとかやるではないか…

T: それとか、ま、芸術家ってレベルの高い人であればあるほど、すごい一生懸命やるから、集中力***そうにね〈えー〉、とすると、なんか、そうしなきゃ、ま、元気も出ないし〈あー〉、あるいは、あの、創作ができないっていうね〈あー〉、えー、だから、それがなくなったら〈あー〉、もう、だめになっちゃうかもしれない。

I: あー、いや、あ、うーん、わたしの考えでは〈ええ〉、その、ロックで〈ええ〉、そういう人、そういう人たちがやるとか〈ええ〉、ロック、ロックミュージシャンが、そういうことだいたいやるとか〈ええ〉、あの一、その、クラシックの〈ええ〉ミュージシャンがやらないとか〈ええ〉、そういうことではなくて〈ええ、ええ〉、やっぱり個人個人が、あの一、あの一、やることですね、うーん。

T: なんか、そういう性格っていうか。

I: そ、性格ですね〈{笑}〉、はい。

そういう、傾向性を持つてるとか、はい。

T: わたしはね、ジャズとか、ま、ロックはべつにつつつても〈うん〉嫌いでもないけど、クラシックが好きな理由は、あの、メッセージがね、あんまりたくさんあるのは、しんどい〈うん〉。

メッセージがないほうが〈あー〉。

それは、どう思いますか？。

音楽は、つまり〈うーん〉、えー、フォークミュージックなんか、ぼくも好きなんだけど〈うーん〉、若いときはメッセージがあるほうがおもしろい。

I: あー。

T: ね。

でも、あんまりメッセージがあるとうるさくって〈あー〉、い、今はメッセージがないほうがいい〈あー〉。

つまり、あの、まー、言う、言えば、芸術のための〈ええ、ええ〉芸術とかね〈ええ〉、音楽のための音楽〈ええ、ええ、ええ〉。

ところが、ロックはメッセージがありすぎて{笑}、…

I: いやー、そう、そうではないと思います。

T: そう？。

I: はい。

あー、だって、【歌手名3】の〈うんうん〉、いちばん簡単な〈うんうん〉、あの一、メッセージなんですよ〈うんうんうんうんうん〉。

もう、あの一、ほんつとに〈ええ〉、あの、【音楽タイトル1】とか〈うんうんうん〉、もう、メッセージが簡単で…

T: 【音楽タイトル2】ってのは有名なやつ？。

K040

- I : ええ、ええ、ええ。
- T : え、どうだったっけ？
うん、ま、あの一、え、よう…
- I : ま、一つの割合かんたんなメッセージですね。
- T : ***ね (はい)。
あれはメッセージない、それだけ？。
- I : ま、あの一、メッセージは、もう、そういう、この、この子がいる。
彼女がかわいくて (うんうん) {笑} (うん)、ぼくも好きだった (あー) というようなメッセージで (うん)。
ま、それ、でも、それは別にして、例えば、えーっと、アイスランドのバンドで (ええ、ええ、ええ)、【歌手名6】というバンドがあるんです (ええ)。
そのバンドは (ええ)、わたしが、あの一、ま、けっこう好きですけども (ええ、ええ、ええ、ええ)、彼らが非常に (ええ) おもしろくて、お、音楽も (ええ) けっこう、あの一、ま、静かですね (ええ、ええ、ええ)。
でも、ま一、ロック、そういう、あの一、ギターとか (ええ)、あの一、シンセサイザーも使ってるんですけども、歌詞は (ええ) 言語ではないんですね (はーはー)。
あの一、アイスランド語でもないし (ええ)、英語でもないし (ええ)、でも、ちゃんと (うん) 歌ってるんですね (うん)、その、そのシンガーが (ええ、ええ、ええ、ええ)。
それが非常におもしろくて。
- T : なるほどね。
- I : そのバンドがすごく、なんか、あの上手ですね。
おも、おもしろいですね。
そして、あの一、その、あの一、彼らのライブ見ると (うん)、なんか、泣いてる人、その、お客さんの中に (うん) 泣いてる人がいるんですね (ふんふんふん)。
彼は歌ってる、何が歌ってる (うんうん、うん)、なんか、その、その一、あの一、聴いてる人が (ええ、ええ、ええ)、それ (あー)、あの一、それ、聴いて (はい)、あ、なんか、…
- T : あ、そう。
- I : その、心に (へー)、その人の心に伝えるという (ほー)、なんか、熱心に伝えるんですね。
- T : 例えば、日本人、ま一、英語の歌が好きだけど、意味が分からなくて、みんな、ほとんど分かってないと思うんですね (あー)。
それについて、どう思いますか？。
- I : ん一、ま、あの一、わか、分からなくても (うん)、あの一、いいじゃない (うん)。
例えば (うん)、わたしが (うん)、その、その、あの一、日本の (うん)、なんか、民謡とか (うん) 聴くと、もう、ぜんぜん分からないんですよ (笑)、その、歌ってること、何を。
で、今、あの一、この、このバンドは、昨日、お富さん (あー、はーはーはー) の曲やってたんですよ。
- T : あ、そう。
- I : シンガーが日本人で、…
- T : はい。
とか、「荒城の月」とかってご存知？。
- I : うん？。
- T : 「荒城の月」という。
- I : あ、あ、それは知りません。
- T : あ、それはいいです。
- I : あ、そうですか。
- T : あ、じゃ、コピーをあげます。
- I : ありがとうございます {笑}。
- T : いろんな人がやってる。
あの一、えっと、え一、あの一、ドイツの、え一、あの一、グループ、え一、あの一、え一、日本語で「さそり」っていうんだけど (あー)、「さそり」、なんだったっけ？。
あの一、有名なグループ、ドイツの。
あの一、【歌手名7】。

K040

- I : あ, 【歌手名 7】 〈{笑}〉。
あー, 聴きました, 聴きました, そのグループは, はい, はい。
- T : すごくおもしろい。
- I : はい 〈うん〉。
あー。
***。
- T : 毎日, ギター弾いてらっしゃるんですか？。
- I : そうですね, だいたい。
- T : あー。
確か, 結婚, されてるね。
- I : はい。
- T : はい。
あ, あ, 家族は？。
子どもさん。
- I : あのー, 家族っていうのは, あの, …
- T : 子どもさんいる？。
- I : あ, い, いないです 〈あーあーあー〉, いないです, はい。
- T : じゃ, いつも生活はどうなんですか？ {笑}。
- I : あ, 今の生活は, ちょっと, あのー, なんか, 今は, あのー, 一人で生活してるんです 〈ええ, ええ〉。
なぜかと言うと, 妻がコスタリカにいます。
- T : コスタリカ 〈ええ〉。
コスタリカはどこだったっけ？。
- I : あの, ちゅ, 中米ですね。
- T : ですね。
あー, そうですね 〈はい〉。
うーん。
仕事？。
- I : 仕事というか, 彼女はスペイン語を勉強したかったんです 〈はーはーはーはー〉。
それで, 彼女は日本人ですけども 〈ええ, ええ, ええ〉, 英語がすごく, けっこう上手です。
- T : なるほどね, ええ, ええ。
- I : 上手っていうか, それは***。
- T : でも, ま, ふつうに話すんですね, とりあえず。
- I : あー。
彼女はけっこうれば [レベル] が高いと 〈はーはーはー〉 思いますよ。
でも, 彼女が, やっぱり, もう, いち, あの, 言語 〈ええ〉, あの, 第3言語 〈ええ, ええ, ええ〉 やりたいと 〈ええ, ええ, ええ〉。
だい, だい, だい, 第3言語だっけ？。
- T : まー, 第3言語かな。
- I : ***。
- T : 第2外国語 {笑}。
- I : だい, 第2外国語。
- T : 二つ目の外国語ねー。
- I : そ, そうですね, はい。
あ, で一, あのー, そうですね, 去年の8月か 〈ええ, ええ, ええ, ええ〉, コスタリカ行ったんですよ。
- T : あ, そう。
- I : やっぱり, 勉強, しっかり勉強 〈ええ〉, あのー, そのー 〈ええ〉 ことばを, あの, その, 身につけるために 〈ええ〉, やっぱり, 現地で, まー, スペイン語圏の国 〈ええ, ええ, ええ〉, 行かないと。
- T : はい 〈はい〉。
じゃ, 寂しいですね, 今はね。
ずっと {笑} …

K040

- I : 寂しいです, はい。
はい, だから, 今, すごい, なんか, ロック, あの, その, バンドの活動が, 今, もう, 一生懸命やっ
てるんですけども {笑} <{笑}>, 彼女が帰ってくると, やっぱり, あの, …
- T : なるほどね。
- I : ええ。
あの <うーん>, いろいろ, 彼女が, あの, この前, 電話が <ええ> かかってきて <ええ, ええ>, 彼女が,
あの, なんですか, あの, サルサやりたい。
- T : サルサ。
- I : サルサ <あー>。
もう, 一緒に行きましょう。
- T : あー, そう。
- I : もう, 男性はリードしないとイケない {笑}。
- T : あ, そう。
おー。
- I : いろいろ指示されたから, ここは, あの一, これから, あの, 【地名6】でサルサの <ええ, ええ>, サル
サのダンス, ダンスが…
- T : あ, そう。
ぼくの学生にブラジル人の学生がいるけど, …
- I : あ, そうですね。
- T : おー, ダンス巧いよ。
- I : あ, そうですね。
- T : ダンス巧いし, 歌も巧い {笑}。
- I : ほー。
でも, ブラジルー, あ, そうですね <うん>。
サルサはやってますか?。
- T : サルサも巧い。
- I : あ, そうですね。
- T : 先生レベル。
- I : あー, そうですね <{笑}>。
ふーん, じゃー, もしかしたら {笑}。
- T : なるほどね。
じゃ, ふだんは, ま, あれか, ギターで^の生活なんですね。
- I : そうですねー <ええ, ええ>。
あの, うーん <うん>, あの, うちのは <ええ>, もう, 年が10年間ぐらい <ええ>, その, ギターを, ま,
あまり弾かなかったんですね <ええ, ええ, ええ>。
10年間 <ええ>, うーん, えー, ま, 勉強して <ええ, はい>, あの, 博士号とるためにすて, 仕事を <は
い>, あの一, ま, 集中するためにやってたんですけども, やっぱり, あ, あ, あ, あ, あの一, ストレス解
消のため <ええ, ええ>, あの一, もう一度, ギターを, あの, 弾くようになりました。
- T : なるほどね, なるほどね <はい>。
分かりました。
そうですね。
もうちょっと, ほんとは, いろいろ聞きたいんですけど, ま, だんだん時間がね, 少なくなってきて。
オーストラリアの, その, アボリジニのね <はい>, 話がさきほど出ましたけど <はい>, うーんと, アボ
リジニのけ, あ, あ, アボリジニのどういうこと?。
アイデンティティのことやってらっしゃる?。
- I : いや。
オーストラリアの <ええ> アイデンティティですね <あー>。
あ, あの, だ, だから, その, アボリジニのアイデンティティも <ええ> 含めてるんですけども <あー
あーあー>, その中で。
その, その, …

K040

T: オーストラリアのアイデンティティってのも難しいですね, そもそも。

I: 難しいです。

T: すごい多民族。

I: 難しいです。

ですから, あのー, 誰が〈ええ〉オースト, ほんとのオーストラリア人かどうかは〈ええ〉, 今, あの, 国のレベルで〈ええ〉, そんな, いろいろ, いろんな〈ええ〉, あの, 議論があるんですね〈あー〉。

例えば, あのー〈ええ〉, 1月26日はオーストラリアデー。

オーストラリアデー。

T: 1月26日。

I: 1月26日ですね〈ふんふん, ええ〉。

オーストラリアデーというんですけれども〈ええ〉, それは, あのー, やっぱり, あの, イギリス, その〈ええ〉, あのー, ま, 植民地〈ええ〉, 植民地になった〈うん〉, なった日ですかねー。

そうですね〈ええ〉。

イギリスが, イギリスの植民地になった〈あー〉日ですけれども〈ええ〉, アボリジニ〈ええ〉の人〈ええ〉, 見ると, から言うと〈ええ〉, それ, あの, オーストラリアデーではなく〈うん〉, インベイジョンデー, つまり, あのー, …

T: あ, そう。

I: そうですね, 外国人が我々の国に〈ええ〉, あのー, しん, しんらく〔侵略〕して〈ええ, ええ〉, で, あの, あのー, なん, なんですね, 虐殺〈ええ, ええ〉してしまいました〈ええ, ええ〉という, だから, これは〈ええ〉, あのー〈ええ〉, あのー, 逆に, 喜ぶではなく〈ええ, ええ〉, この日は, あの, 喜びの日ではない, …

T: なるほどね。

I: もう, ほんとに, す〈ええ〉, あのー, 寂しい日です〈ええ〉, すごい。

T: 難しい問題ですね。

I: はい。

それは難しい問題で, その, アイデンティティについて, わたしは, やっぱり, あの, 最近〈ええ〉オーストラリアで〈ええ〉, あのー, シドニーでいろんな問題がありまして〈ええ, ええ, ええ〉, あの, その, 白人のオーストラリア人と, ほんとの白人のオーストラリア人という議論が最近, ものすごく, あのー〈うん〉, 盛り上がって, それで, その, あのー, 例えば, その, *Ozzies*〈ええ, ええ, ええ〉, *true blue Ozzies*と〈ええ, ええ, ええ〉, *Ozzies*じゃない人〈ええ, ええ〉, 例えばレベニーズ系の人とか〈ええ〉, もう, もちろんオーストラリアに生まれるんですけれども〈ええ〉, そういう人たちとの, あの, なんか,

T: いやー, …

I: グループ, グループの, なんか, ま, やっぱり, 差別があるんですね。

T: じゃーね, ほんとは, もうちょっと, その話をしたいんですけど〈ええ, はい〉, 時間がなくなってきたので, あのー, そうですね, 例えば【I (名)】さんが, 今から, ちょっと, ロールプレイをしますけど〈はい〉, えーっと, そうですね, 日本人で世話になった人ってありますか?。

日本語だとか, ホームステイだとか〈はい〉。

ね, えー, ずいぶん…

I: あります, あります。

T: 例えば, 勉強とか, どんな感じですか?〈ええ〉。

どんな世話をされましたか?。

I: あー, あのー, ずいぶん, あのー, まぎ〈ええ〉, えーっと, 3ヶ月間〈ええ, ええ〉, ホームステイしたんですね。

T: なるほど。

じゃー, その人を, お世話になったんですね〈はい〉, えー, ちょっと, あのー, みんなに紹介する機会があったんです, まー, パーティみないなものでね〈ふんふんふん〉。

だから, ちょっと, フォーマルに, あの, 紹介する必要があるんですね〈はい〉。

えー, 丁寧に紹介してほしいんですね〈はい〉。

ですから, 今ここに10人ぐらい人がいて〈はい〉, で, 【I (名)】さんが, わたしたちに〈はい〉, あの,

K040

その、お世話になったホームステイの方ですね、簡単に紹介していただけますか〈はい〉。

それで、ちょっと、紹介して、ま、何か話をしてもらおうというね、えー、ものですけど。

I : あ、その〈はい〉、その、あの、件について。

T : はい、そうです〈はい〉。

だから、1分ぐらいで、短い、…

I : あー。

T : はい。

お願いします。

I : あ、みなさん、こんにちは。

T : こんにちは。

I : あのー、【I (名・姓)】です〈はい〉。

あの〈ええ、ええ〉、こちらの方は【人名1】さん〈あー〉という方なんですけれども〈はいはいはい〉、私はずいぶん〈ええ〉、あの、【地名6】で〈ええ〉お世話になりました〈あー〉。

あの、【人名1】さんが、【人名1】さんの家で、えーっと、3ヶ月間〈ええ、ええ〉、ホームステイしました〈ええ、ええ〉。

でー、その間、【人名1】さんから〈ええ、ええ〉、日本語も〈ええ〉、まー、日本の食べ物も〈ええ〉、日本の習慣〈ええ、ええ〉、いろいろ教えていただきました〈あー、ええ、ええ〉。

ほんとにお世話になりました〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、で、わたしが、あの、オーストラリアに帰ったときに〈ええ、ええ〉、【人名1】さんに〈ええ〉、あのー、お礼の手紙〈ええ、ええ〉、いくつか書いたんですけども、まだまだ、あのー、えーと、ま、とにかく、深い、あの、【人名1】さんに対して、深い、あの、感謝を持っています。

T : 分かりました〈はい〉。

で、今、それが終わって〈はい〉、ところが、子どもが、ちょっと、5歳ぐらいの子がうろうろうろうろしてるんですよ〈あー〉。

うるさいの、子どもね〈はい〉。

なんか、退屈してるんですね〈はい〉。

わたしが、ちょっと、その子どもになりますから、子どもに、わたしが子どもになりますからね〈あー、はい〉、子どもに、ちょっと、静かにするように、子どもに話すように〈あー〉、お願いしてほしいんです。

いいですね〈あー〉。

子どもに話すようにね。

I : はい。

T : うん。

なに、もう、うるさい、だいたい、つまらない。

何やってんだよ。

I : あー、【T (名)】くん、何やってるん {笑}。

T : もー、うん、なんで、お兄さん、何やってんの、ここで？。

I : あ。

あ、楽しいことやってるよ。

T : うん。

つまんないよ、だけど。

I : いやー、楽しもうよ。

T : え、どうやって？。

I : え。

手挙げて。

T : はい。

I : いいじゃないですか。

T : え。

I : ええ、ええ、そうですよ。

T : あー。

I : そうよ {笑}。

K040

T : 良かったよ。

はい。

I : はい, おんぶしてあげるよ。

T : はい, ありがとう {笑}。

ちょっと, 時間がなくなっちゃったんで, これで, いちおう終わります。

あの一, え一, ちょっと, だいぶ話が長くなったので <{笑}>, 30分で終わっちゃうんで, 終わらなきゃだめなんですね <はい>。

ですから, …